

平和メッセージ

私たちはこれまでに小学校や中学校の平和学習を通じて戦争の怖さや悲しさ、平和の大切さを学んできました。中学1年生の時に見た「ガラスのうさぎ」は戦争で家族を亡くした少女が一生懸命に生きていく話でした。少女が悲しみの中でも前を向いて進んでいく姿を見て、『生きている』ということは、どれだけ奇跡なのかと気づかされました。2年生では立命館大学国際平和ミュージアムを訪れ、戦争中に書かれた日記などの資料を見たり、学芸員の方に説明をしていただいたりし、当たり前にある日常が戦争によって奪われていたことがわかりました。また、学校の授業では太平洋戦争や沖縄戦について学びました。大人だけでなく、私たちのような中学生も戦争に参加していたことや、集団自決で「愛する人を愛しているから殺す」という今では考えられないことが当時はたくさん起こっていたと知り、心がしめつけられました。

そして、3年生の修学旅行。日本で唯一地上戦が行われた沖縄へ。私たちは糸数アブチラガマを見学しました。ガマでは、戦争にもう一度動員できる兵士とできない兵士とに分けられ、できない兵士には食料を一切与えず死を待たせるだけの対応だったことを知りました。1人に1つしかない大切な命がこんなにも軽く扱われていたことに本当に衝撃を受けました。また、沖縄では、戦争が終わった現在でも、地雷や不発弾の処理が行われています。近年でも不発弾の爆発事故が多く、「戦争はまだ続いている」と言われていることも学びました。

戦争は過去のことでありません。沖縄のように、今なお、住民の生活が不発弾によって脅かされている地域が世界中にあったり、今も戦争をしている国があたりすることが現実です。私たち人間は、過去の戦争からたくさんのことを学んだはずなのに、同じことが繰り返されているのは、みんなの記憶から戦争の苦しさや怖さがうすれていっているからだと思いました。

戦争は命や人権、未来などすべてを奪い、たくさんの方の心に深い傷をつけます。それは簡単に治るものではありません。そんな思いをする人が、これ以上増えないことこそ、世界中のみんなの願いだったはずで。だからこそ私たちは、今までに知ったことや学んだことを次世代へ伝え、世界の人々の平和の意識を高めるとともに、これからも世界の平和のために学び続けることが必要だと思います。

私は、平和な社会を実現するために、これらのことを意識して、自分のできることを考え、その役割を果たせる人になりたいと思います。

令和7年8月30日

米原市立大東中学校3年 山根和華